

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	たにやま たんぼぼ		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 10日		～ 令和7年 1月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 10日		～ 令和7年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同法人の幼稚園型こども園たにやま幼稚園と併行利用している幼児が多く、連携が取りやすい。	学園内で合同の職員会や学年会を行っている。双方で気になる事がある場合、状態を共有し随時支援内容を検討している。また、同法人外の併行利用に関しても電話や施設見学を行いながら連携を図っている。	連携を行う関係施設範囲を拡大すると同時に、各施設の見通しや目標、支援内容を共有していく。
2	職員会議や指導後のミーティング等の時間を作り、チームとして状態を共有する事ができている。	担任制ではなく、利用児に対してチームを形成し指導に当たっている。	職員一人ひとりの専門性を高め、行動観察や指導力の向上に努める。
3	生活空間は清潔を保ち、心地よく過ごせる空間となっており、集団で活動する部屋と個別活動の部屋を、活動内容や利用児の状態に合わせて使用できる。	毎日の掃除、換気、利用児が入れ替わる毎の消毒を徹底している。オゾンや空気清浄機を設置している。常に清潔を保ち、心地よく過ごせる空間となるよう努めている。又、広々とした集団活動室と、個別で落ち着いて活動できる個別活動室とを利用児の状態や用途に合わせて使用している。	今後も引き続き、現在行っている取り組みを徹底するとともに、感染症の状況や利用児の状況等を含め、社会の状況や利用児の成長や変化に目を向け、随時対応していけるよう努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	状態や見通しの共有の頻度が少ないご家庭がある。	個別指導の為、保護者の予定と子どもの利用日または事業所の開所時間が合わない場合がある。	保護者の希望に合わせて子どもの利用日を柔軟に変更する。面談等の日時を柔軟に対応する。
2	併行利用の幼稚園や保育園とは十分な連携が取れているが、その他の施設との連携が薄い場合がある。	就学等の節目では連携を取るが、日々の指導の中で連携をとる習慣ができていない。	保護者を介しての情報共有だけでなく、面談や電話等を活用しながら状態を共有していく。
3	保護者会等の保護者の交流を行っていない。	同法人にこども園があり、概ね利用児が同法人のこども園を利用している為、保護者会が重複してしまう。	保護者と協議しながら、事業所での保護者会等が必要か検討する。